

增補考古畫譜

卷一



Zoku Koku Gaku

增補考古畫譜卷一



黒川春村原稿
古川躬行纂輯
黒川真頼増補

安部

荒海御障子

補真頼曰、せ、部清涼殿弘廂手長足長御障子の條、又て、部手長足長御障子の條、見合せし。

帝王編年記卷十二年弘仁九月云、是日有制、改殿門号

題額、凡大内賢聖、并昆明池、荒海障子等、弘仁中各

被施畫圖。

建曆御記上卷云、弘廂板九枚、北立荒海障子、南、方

代、布障子、墨畫也、二、間與上、御局長、北、面障子、宇治、網

南、昆明池、北、嵯峨野、小鷹狩、局、仍、荒海障子、副、二尺許、為路立、障

枕草紙卷一云、清凉殿のうゝとら此をとの北の

由日補考古畫譜卷一

一



本朝画史云寛和帝好画藝曾以墨画車以濃淡墨作輪居多其運轉之勢如親見之又寫手長尺長之形

補真頼曰寛和帝の画くこと好淡墨を以て走り走る車を画がさあど給ひことたしうある本文あり左より大鏡卷五花山院のりへおめて御画おをこしうけしありさし走る車の輪さうとよめとせ給ひておをさこのわや

あどあやうの墨をよわそ給へりしけりくことへけりしとあり走り走る車ハいつとも黒さのわや見返侍る又たうんあ皮を男のおびぶとよいせてめりううしておをせし類ありめてゆしうかぢたうく又徳人たありあの家のおちの作法おがせ給へりしとよいせとよいせありけんとのとあさあしうを候ひし中御らんたる人もやあそきまらん

魚だてある御さうとりは、何ら海のうた、いきたるもの、たそ海しあふてなぐ足長をぞあ、きたる

補古今著聞集卷十一云、南殿の賢聖障子ハ、寛平の御時始てあり、是等あり、其名臣といふハ、馬周、房玄齡、杜如晦、魏徵、自東諸葛亮、遠伯玉、張良、第五倫、同二管仲、鄧禹、子産、蕭何、同三伊尹、傅説、太公望、仲山甫、同四李勣、虞世南、杜預、張華、自西羊祐、楊雄、陳寔、班固、同三桓榮、鄭玄、蘓武、倪寛、同二董仲舒、文翁、賈誼、叔孫通、自西一等あり、此人々の影をか、是等系、彼麒麟閣の功臣を圖せられたる跡をたせしけるもや、をどめハ、色紙形も銘をの、出たり、是等、さき道風朝臣の申文も、七度けりせ

るよ、載たり、其銘いつ頃よりか、せどあれるよ、當時ハ見延ど、色紙形をの、里ど侍り、承元ハ閑院の皇居焼け、即造内裏ありたる、本ハ尋常の式の屋、松殿作らせ給たりけるを、此度改めて大内裏に募して、紫宸、清凉、宜陽、校書殿、弓場陣座おと、宴頃の所々たてそへらせけり、土御門の内裏のか、里等處とぞ聞延し、地形せむくて、紫宸殿の間敷を去り、めらせり、賢臣の影をちいさく縮められしけり、建長の造内裏の時少々又用捨せらせり、くハ、尋て注をべし、大内にてハ、此障子を皆をちあられて、公事の時むの、里ど立ちせり、御秘藏の儀にて侍りるもや、建曆ハ閑院よりつされて後ハ、そをてせり

補真頼曰、古今著聞集の文を、禁中御障子の画ついでと目見ゆんぐなめあり、此其画の條々も、此文をぬき書して、更なめせり、全文を見んとあむ、此のころ見て見よ

とある事、又鬼間の壁は白澤王をかきたる事、むろ彼間鬼のそとけを鎮めらるる故、かれたる事と申傳へたを、たとある説を志らざ、又清凉殿の弘願は、いたち障子を立て、昆明池を圖せたり、そのうら、野を書て、片方は小屋形あり、又近衛司の鷹つらひたるをかけ、是は雜藝侍り、嵯峨野小狩せし少將の心とぞ、その少將といふ、大井川のほとり、その季綱の少將の事、や、の大井の家を出て、嵯峨野に狩しけり、つらるるこそ、又萩の戸のまへある布障子を、荒海の障子と名付て、手長足長と書たり、その北うら、宇治の網代を書り、清少納言が枕草子に、此

障子の事を見返り、一條院のころ、書きたると、大の清凉殿の唐繪を、とる書からせし事、侍り、渡殿をね馬よせ馬の障子を立て、又同ト渡殿の北邊、朝のまひの前は馬形の障子侍り、陣の座の上は、李將軍が虎を射たる障子をよせり、校書殿は、養由基が猿を射たる障子を寄立たり、これこれいかに御時より、といふ事を去らせ、由緒か、おおつるあり、閑院は、大内をうつさきて、後よせ馬の障子、并は李將軍養由の障子など、沙汰あり、を、四條院の御時、西園寺相國禪門修理せられ、る時、頭中將資季朝臣申起て、立られたる、いと興ある事あり、此障子の繪本ども、鴨居殿の御倉にぞ侍あり、

土佐系圖云越前守
行光画手長脚長
補異本土佐系圖云
越前守行光頭注云
延文五年十二月二
日大學會修紀主基
御屏風調進之画手
長足長
補真賴曰土佐行光
亦延文の比荒
海の障子を画りけり
とあり一あり一延文
ハ北朝後光嚴天皇の
時あり

建長造内裏のとき繪所の預前の加賀守有房繪
本をたざりきれハ取出してかゝせられ奉りむ
のの馬形の障子を金岡の書たりり夜々
をあられて萩の戸の萩をくひ奉りハ勅定有て其
馬をつまぎたるといを書きされたりと云ハ
ふ事と成り奉り申傳へ侍りハまことありり
ふ事とや
本朝畫史云有房姓氏未詳為繪所預兼加賀權守
建長造内裡時應詔欲畫之然無舊本自鴨居殿御
倉出金岡畫本以是傳有房令勤此役
土佐系圖云經隆初名有房
補本朝畫圖品目云荒海障子摹本畫工を志
躬行按に上件の系圖ハ有房を經隆のせとの

補真賴曰朝餉間御
障子の画ハ清凉殿
臺盤所の大和繪御
障子のことあり又
猫の繪ハ清凉殿朝
餉の御障子の繪を
りせノ部見合をへ

朝餉間御障子
建替御記卷上云朝餉臺盤所方障子和繪御手水
間方障子畫猫
禁腋秘抄云小障子竹ニ雀猫ヲカク棚ニ御撫モ
ノヲ置鼠ニ喰セジガタメニ猫ヲ畫ト云
朝所古圖
國朝書目載之

名とせること甚しき附會をせ經隆ハ尊卑分
脈ハ繪所預隆能孫中務少輔隆親男顯文抄ハ
高倉帝の承安頃の人とせり然らバ此より七
八十年の後ある後深草帝の建長の造内裏ハ
何ハむ事年序頗遠ハ有房ハとより別人を
ること論をまたせ

熱田社古圖 二枚

類聚目錄載之

補古畫目錄云熱田古社圖二枚尾張家御藏摹本
松平彈正大弼ニ在リ

同社繪圖

名畫拾彙云加野和泉能畫享祿二年二月描畫重
修尾州熱田社繪卷詞書者賢信也當今社家藏焉

接要記之

天^ア雅^カ彦^{ヒコ}草子 二卷

繪土佐廣周詞後小松帝宸翰長井十足藏上卷録

奧書云詞今上宸筆繪土佐彈正藤原廣周筆

補古畫目錄云天若彦草紙彈正忠廣周筆住吉家
繪本

補真贋曰此の繪詞ハ本朝画品目ナハ熱田社再興繪詞とあり

類聚目錄云彈正忠廣周筆

倭錦云天若彦草子繪廣周

躬行案ニ類聚目錄ニ七夕雙紙繪とありて筆
者を不注をのり此草紙のまゝの名あるべく
お不ゆゑあるよりの此物語大名持神ハ須佐
の雄神の御をとよよとあたまて須勢
利姫命をよびひまゝさまゝの辛苦の御事
を天稚おこ下照姫のうへとしてをとこを女
は引たがへて星のおとゝを急の詞ははら
ばせしは一たびごとて瓜をちてみげうち
まうちたどるあまの川とありてまあを
さおまほしとて年はひとたむあふありと何
まばさをやとかををふあり

補同

二卷

補本朝畫圖品目云。天稚彦二卷。画廣通。詞書不知。新見家藏

補倭錦云。住吉如慶。天稚彦草子

粟田真人入唐圖

柳菴隨筆云。今人の古く畫の事ありとくある。しとの也。是ハ吉備公入唐圖と。信西樂圖と。よまて作せりあり

躬行曰。粟田朝臣。名ハ真人。文武朝の人也。續日本紀卷三云。慶雲元年秋七月甲申朔。正四位下。粟田朝臣真人。自唐國至云云。唐人謂我使曰。亟聞海東有大倭國。謂之君子國。人民豊樂。禮義敦厚。今省使人。儀容大淨。豈不信乎。語畢而去。とあ

るハこの時の事あり。同書卷八云。養老三年二月甲子。正三位粟田真人薨。と見ゆたり

安倍晴明朝臣像 一幀

傳云。安倍尊真筆 土御門家傳來

補色紙形ハ書して云く。朝班博士有誰爭。曆數天文傳最精。賀氏昔年分道後。金烏玉兔輝遺名

補真賴曰。摹本淺草文庫ハあり

或云。尊真ハ晴明朝臣の子ハして。宿曜師なりと。然止と系圖ハのせど

阿彌陀寺障子像 十枚

本朝畫圖品目云。長門國阿彌陀寺。平家一門像 生不 画中納言教盛。新中納言知盛。能登守教經。内藏人信基。三位中将資盛。修理大夫經盛。廊御方。帥典侍。

大納言典侍治部卿局十人の像あり

補真賴曰集古十種中納言知盛卿以下男女十人の像模寫してあり皆座像あり就て見る

補真賴曰阿彌陀寺障子の繪を或ハ平家盛衰繪といへり去々とも盛衰繪といふ稱ありあらん

貫雄曰此像隆信朝臣の真跡疑ふべからざ然ととも去々俗手の修繕を及て其真面目を失ひてことこの談峰縁起に記し

阿佛尼庭訓 一卷

書畫筆者姓名未詳 躬行曰或云此繪巧を去々とも古畫不紛して後

人の作る所あらむ阿佛ハ權大納言為家卿の室前但馬守平廣繁女安嘉門院四條原右衛門佐

阿彌陀佛像 一幀

寺社寶物展閱目錄云惠心僧都筆梅尾高山寺藏

補真賴曰惠心僧都の畫けり山越阿彌陀の像といへりをのありやノ部見合とべし 躬行曰惠心僧都源信寛仁元年六月十日化七十六

補畫工便覽卷三云釋源空蹄法然上人常圖繪彌陀及觀音勢至像又畫經意精器不少

同

玉藻卷十八云嘉禎三年三月廿八日己卯晴此日故攝政忌辰日也於小政所亭有御經供養三尺阿彌陀繪像妙經六部導師被物二褰物一色々帟一結色々帟一結題名僧被物一褰物一導師圓聰法

印題名僧六口。皆籠僧也。

補同

補地蔵靈驗記卷四云。後深草院正嘉元年。伊賀國上野ト云所ニ商アリ。惠心僧都ノ真筆。紫衣ノ阿彌陀兩脇士ノ後ニ地蔵尊ヲ畫ク像アリ。世ニ傳來ストイヘドモ。彼終ニ信セス。篋ノ中ニ捨置ケル云々

補同

補為經卿記云。寛元四年三月十三日午刻。參院。自今日被始行十日御講。以廣御所東小御所三ヶ間為道場。判宜代宮内少輔成俊奉仕堂莊嚴。懸幡花鬘於三ヶ間東北二面障子上。懸翠簾。以東為御聽聞所。以北為女房聽聞所。西障子不懸簾。猶可懸敷。中央間副北

立佛臺。奉懸御佛。阿彌陀佛。件御佛。先帝被圖繪之。每日一鉢。可被讚嘆。一鋪別百鉢也。圖云々

補真賴曰。先帝ハ四條天皇ナリ

補同

補畫工便覽卷三云。慧日坊。梅尾明惠弟子。瑞泉寺色紙形。殿之扉。畫ニ菩薩及彌陀尊像

補同

補同書卷三云。釋範宴。始綽空。彌親鸞上人云々。常圖繪佛像。今一宗所模寫真向彌陀而已

補同

補倭錦云。巨勢相見。彌陀

補同

補同書云。春日基光。阿彌陀佛

補 真頼曰。この像。方今淺草文庫にあり。紺の絹
本金泥にて畫ぐけり。堅物あり。箱の蓋書付ハ。
抱一あり

補同

補 同書云。宅磨為遠。阿彌陀

補同

補 同書云。宅磨澄賀。阿彌陀。誓願寺什物

補同

補 頓阿高野日記云。くまてたどる。いほりよ
いしぬ。綱元火うちをとりいで。とを。つけ給
ふを見まば。や。七尺四面の菴ふ。彌陀と大師の
像をうけて。佛具さそやうま。何うだを軒ちうう
去つらひ。そのま。水むきび。花まゐらせかへ。火

か。げそへ。香ももうつして。おの像周制の筆
ておとしまをどぞ。よのつねに見返せ云々

補同

補 古今著聞集卷二云。三井寺の公胤僧正多ちえ
んのため。四十九日の導師をのぞきて。兩界曼
陀羅并に阿彌陀の像を。くやうしてけり云々

補 阿彌陀釋迦藥師彌勒四佛像

補 多武峯略記下卷云。十三重檜皮葺云云。要記云。
塔中自本无佛像。去延喜年中。沙彌仁照。始安四佛
繪像。于今在之矣

補 真頼曰。此圖新古の二圖あり。委しくハ志ノ
部に掲ぐ

補 阿彌陀三尊像

補右中辨為親記云。久壽二年十二月十四日。依遠
忌向仁和寺阿闍梨房。佛事如恒例。但阿彌陀三尊。
予所圖繪也。入夜歸亭

補同

補倭錦云。巨勢金岡。阿彌陀三尊。芝山觀音寺什物

補同

補同書云。春日隆能。阿彌陀三尊。童子アリ

補同

補同書云。宅磨澄賀。阿彌陀三尊。宇都宮無緣院什
物

補阿彌陀觀音勢至像

補本朝文粹卷十三云。為盲僧真救。供養卒都婆願
文。江匡衡。佛子真救。敬白云云。因茲弟子致一心。合

衆力。造立十三基。有三面矣。一面奉圖阿彌陀佛觀
音勢至各一體。一面奉圖阿彌陀佛地藏龍樹各一
體。以六體佛菩薩。蓋當六道矣。一面奉圖阿彌陀等。
蓋檀那善女人之願也

補阿彌陀地藏龍樹像

補同書卷十三

補真賴曰。本文上件二揭載せり

補阿彌陀佛像

補同書卷十三

補真賴曰。本文上件二揭載せり

補阿彌陀淨土繪

補小右記云。長德五年七月三日。拂曉向禪林寺。故
女御周忌法事日也。略中早朝先送法服。七僧僧綱紫
甲凡僧

甲 檀奉圖阿彌陀淨土奉書銀字法華經其經口紺紙
水精軸納紫檀管以蘆木潤色

補同

補同記云寬仁二年四月十五日今日於天台法華堂修故中納言周忌法事今晚宰相左中辨等參登佛阿彌陀淨土左經法華經宰七僧布施供養左中辨令圖繪相令講二十僧布施供養宰相件事等皆遺定歟略宰相左中辨今日下山之便於河原除服十八日正日除歟近代除服之過忌日也

補春村曰尊卑分脉辨官補任等よりて按るは故中納言ハ小野宮右府實資公の舍弟懷平卿子去年四月十八日薨去せられたるハ周忌十八日とあるよよく協へりさて宰相ハ

補元幹曰二條ハ冷東の誤あるべし

補

阿彌陀緣起繪
古畫類聚目錄云彌陀緣起繪鎌倉光觸寺藏詞二條為相卿

補

阿彌陀淨土畫像
補續日本紀卷廿三云天平寶字四年秋七月癸丑設皇太后七々齋於東大寺并京師諸小寺其天下諸國每國奉造阿彌陀淨土畫像仍計國內見僧尼寫稱讚淨土經各於國分金光明寺禮拜供養

赤童子像

一 慎
本朝畫史云忠仁公所畫春日明神化現赤童子今現在焉

補真賴曰忠仁公の赤童子の像ハ地上人の筆跡ありのせたり也後子杉浦氏の所藏といふれり

大納言資平卿子懷平卿二男實資公左中辨

ハ權中納言經通卿子懷平卿嫡男あり

補 倭錦云忠仁公赤童子一幅

貫雄曰幕府旗下杉浦左衛門尉珍藏實希世之筆痕也

躬行曰此何れ童子といふを、おほなるくも春日神の御らなどといふる僧徒等が例のそらごとこそあはましきとて、春日の神ハ、神名式ハ春日の祭神四座と載せ、今も四柱ましまを、是ハ一体あるさへいとあや

補 真頼曰赤童子を春日の神ありといふハ、僧徒の例の附會あまども、春日の四座を、赤童子ありといへるおらぞ、四座のうち、天兒屋根命を、赤童子ありといふなり、増補佛像

圖彙卷三、赤童子、皇孫日向國高千穂峯、天降リ玉ノ時、扶翼ノ臣タリト見返り

同 一幀

寺社寶物展覧目錄云、惠日房成忍筆、高山寺藏

補 同

補 倭錦云、宅磨為行、赤童子

補 同

補 同書云、土佐光弘、赤童子讚アリ

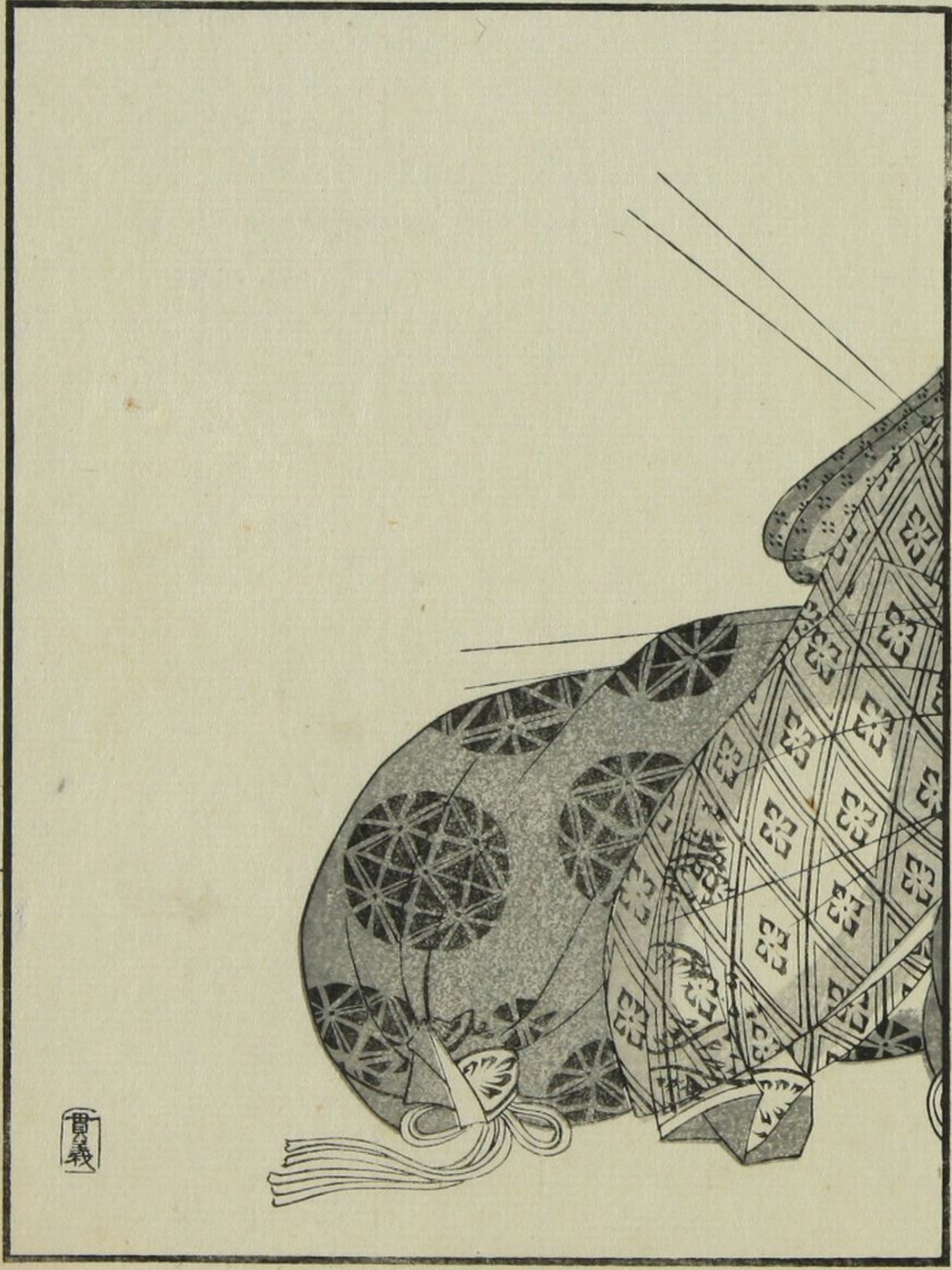
阿字義傳 一卷

本朝畫圖品目云、阿字義、繪寂蓮類聚目録

皇朝名畫拾彙云、寂蓮始名俊長、俊成卿甥、官至左少將、後入釋門、建仁二年七月廿日化、作丹青墨戲補古畫目錄云、阿字義一卷、男位官人寂蓮法師筆、京

阿字義傳

京都三條高倉世繼八郎兵衛藏



阿字義傳

阿字義傳

十三

師三條高倉世繼八郎兵衛藏

補淺草文庫藏摹本奥書云右阿字義人物者南都
有之候由也西園寺御家西村正邦朝臣おたび東
へをてくせらせけりせ彼朝臣より借請于時享
和三年癸亥五月十六日廣美寫

補真頼曰淺草文庫藏摹本ハ詞脱せり惜むべ
し此の巻物の見りるゝの繪も殊勝のをのろ
り蘆手繪あり即往生阿彌陀佛世界の意あり
貫雄曰岡田為恭藏文久二年四月京師不至り
て再おせををるゝ寂蓮筆よあらぞ書畫の風
衣冠の体を詳おせりるゝ恐らくハ鳥羽上皇の
宸翰あらむ巻標の蘆手繪を亦凡あらは

阿字觀圖 一補

躬行曰岡田為恭此
書中或ハ冷泉為恭
と記蓋同人あり

躬行曰寶鏡康治二
年十二月十二日寂

釋書不載此傳世
將門の未探といふ

倭錦云覺鏝上人阿字觀

補天照皇太神御影

補畫工便覽卷三云吉光不知何人善畫神佛像人
物駿州沼津妙海寺什物二幅存所謂天照八幡二
神有志氣活動日蓮共讚

補淡路國竹口八幡宮神寶圖

補摹本淺草文庫よあり

補真頼曰腹巻の圖七枚あり

補阿波國白人社古藤并鏝圖 二卷

補摹本淺草文庫よあり鏝ハ為朝の所用といへ

り

補愛染明王像

補畫工便覽卷四云化藏院不知其名常州人圖不

動愛深面手全身以悉曇異作而在活動

補同

補同書云巨勢相見愛深明王上野護國院什物

補同

補同書云巨勢公持愛深明王

補同

補同書云上佐經隆愛深明王

補同

補同書云春日行秀愛深尊

補同

補同書云覺鏡上人愛深明王

秋夜長物語 一卷

道の幸云秋夜長物語詞書をうつを寂蓮法師の

筆也繪ハ光長といひ傳へたまどもさだりあら
ど但不在注躬行案ハ此はうハ西山の瞻西上人梅若丸

の事よして道心たこましをのりたりあふ
ガ古物語類字抄ハ應永の頃あども造り出し
をのあらんといへり昔ハ文体さこそ見返た
まはて此物語本文ハ後堀川院の御宇ハ西山
のせんざい上人とて云云と時代さだりよ記
しるをその御代よをや古くあの僧の
未生已前ありけん長寛文治の頃あり寂蓮
光長ハこの物語の書畫あらんこと所謂道風
朝臣の朗詠集のたぐひといひつべし
又曰群書類從第三百十一秋夜長物語一卷あ

鴉鷺物語

古畫類聚目錄載之但不録書畫等

躬行案よ一條禪閣の鴉鷺物語ハ繪を加へ

そのあるべし續群書類從第九百八十五鴉鷺

物語二卷あり

朱の盤

花鳥餘情手習卷云朱の盤といふ繪物語あり文

珠樓の目あり鬼の事をあり

蘆曳繪 五卷

天聽集云天文四年四月二日武家へ蘆曳繪五卷

借之

春村曰こまハ蘆手書の繪本おとよや法まが

らうみらぞ

補真頼曰異本土佐系圖云越前守光正頭注云
畫長歌葦手其圖傳授于家と見たり考合と

紫瑠球屏風 一帖

倭錦云長隆砂子紫陽花屏風片シ

扇流屏風 二枚折

同書云刑部大輔光信筆有設色或墨画

躬行曰扇流の事ハ安齋隨筆ハい法生の時ハ

嵯峨の天龍寺の御成のとき小童の持たる扇

風おとられて渡月橋よをあらせしをあらせし

ろしとて供奉の人々扇をなぐしあり其後

五山の寺々御成のとき扇あがしを屏風よか

補真頼曰扇流屏風
二枚折光信筆とい
へるもの倭錦を引
掲げらしたまはと倭
錦ハ見せぬハハ
光信ののけりといふ
扇面二枚折彩色墨
画とあるものをいへ
るまや

きて、夫よと儀式のやうなあり。御成ふハかあ
らど、是を考つる事おありたり。ととゆ

秋野日月屏風

同書云。土佐光吉。秋野日月屏風

蘆雁屏風

同書云。土佐光則。蘆雁屏風

葦屋釜下繪 一卷

補本朝畫圖品目云。蘆屋釜下繪。畫光信

倭錦云。光信蘆屋小釜下繪

摹本與書云。右家藏釜切形十二。東山殿御好。下繪

光信朝臣筆也。寛政四子年。鵬月十日。七佐守光貞

模寫

貫雄曰。此餘慈照院の命ふよりて。光信下繪を

以て造れる釜。往々現存せり

補真頼曰。葦屋釜下繪一卷。今ハ御物と云せり

補粟田口法眼繪本

補古畫類聚目錄云

第一 第二 第三 光信 筆

第四 第五 第六 光信 筆

第七 第八 第九

第十 第十一 第十二 第十三 郡山、柳澤家々人木
戸基藏、板上所畫
詞、後三條院宸筆

補真頼曰。粟田口法眼ハ名ハ隆光といひて。光

顯の子よて。應永の人あり。と倭錦小いへり。融

通念佛繪も。粟田口民部法眼隆光と見正て。

應永の人ある事いとあきらましく。此粟田口法

眼繪本といふハ十三本ありて、をせり中ニ、隆光のあまらるが多かれバ、栗田口法眼繪本トハ名つきたるをの歟。光信ハ永正頃の人をせバ、隆光よりた、いさくおくせさる

補 扇の繪

補 長秋記云、保延元年六月廿一日、予申曰、扇繪誰人可勤仕哉。仰曰、覺猷大僧正稱老屈者、可召仰頼俊者

補 同

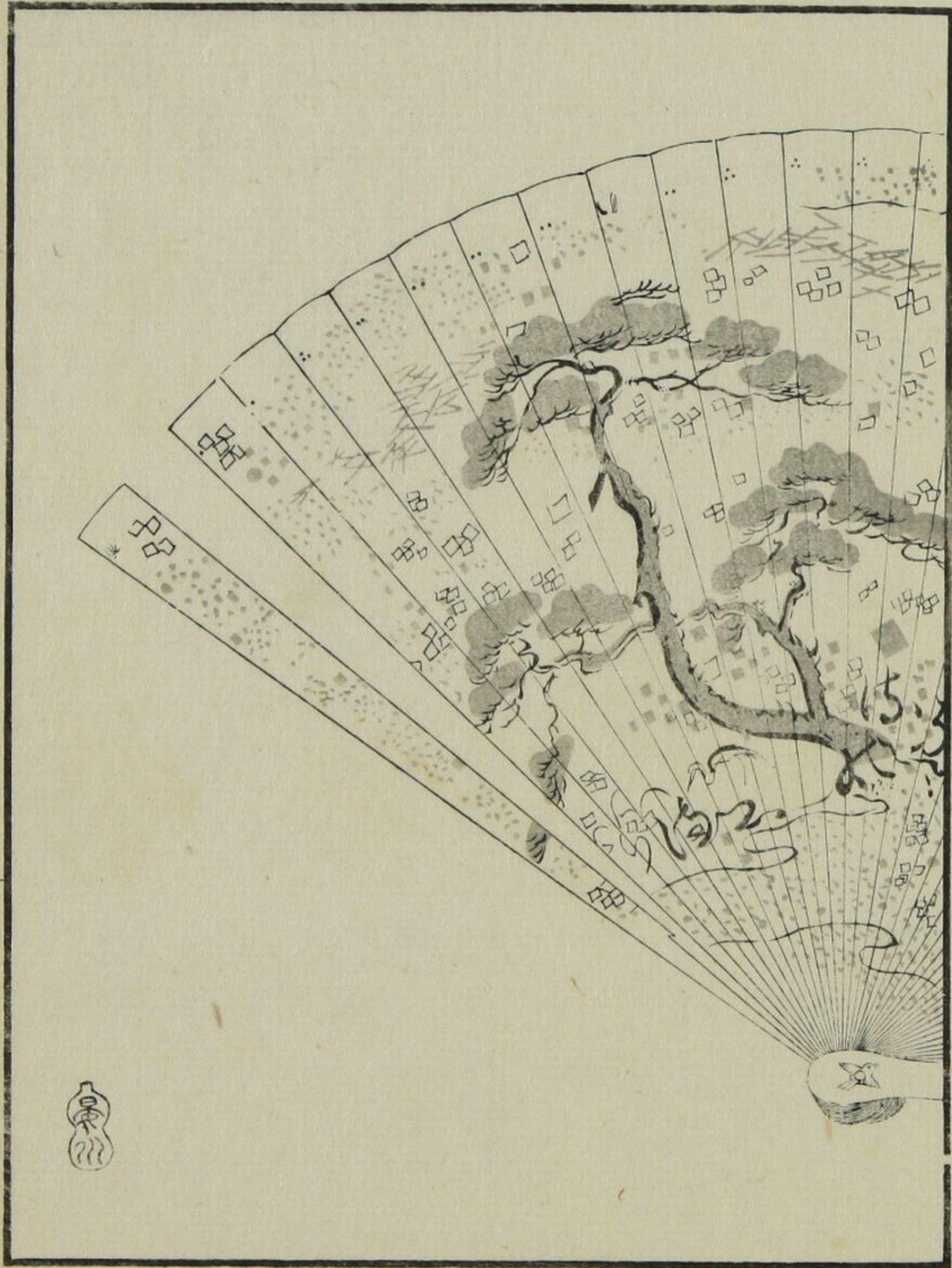
補 嚴島寶物圖會卷一云、繪扇、寶物目錄寄附ノ人ヲ注サズ、故ニ今詳ナラザレドモ、元六七百年前ノモノナルベシ

補 真頼曰、此の扇の繪ハ、世ハ隆能ガ畫かけり

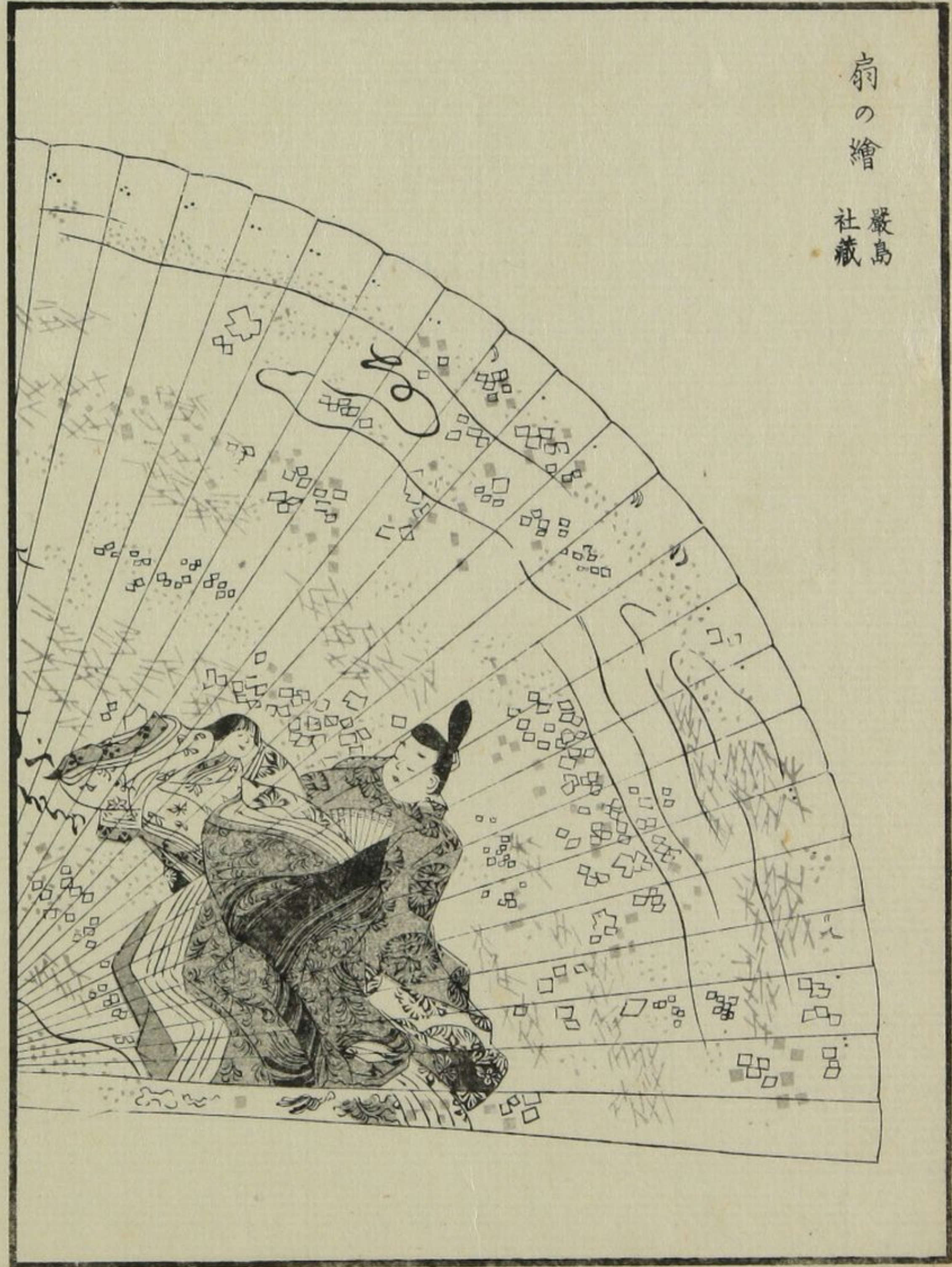
といひ傳へさる。源氏物語の繪も、いとよく似たり。恐らくハこの頃のものをあふべし。せしハ清盛公の息女たとの志わぎ歟。摹本淺草文庫ニあり

補 雨の繪

補 枕草紙卷九云、ほそどのよびんあき人あん曉に笠さ、せて出さる。といひい傳たるを、よくきけバ、わがうへあまけり。地下あどいひては、めやそく人よゆるさきぬをの人の人よあらざめるを、あやしのことやとおほふほど、うへより御文をて来て、返事只今とおほせらせたり。何事みるとおほひて見せバ、大がさのあたをさきて、人ハ見送だ。たゞ手のあぎり笠をとらへさせて、



扇の繪
嚴島
社藏



繪巻物語
古書評卷一

下

みのは山やまのを何事一あしたよととか
せ給へる。あほをのあきことおてを。めでたくの
こおほ返させ給ふ。はげしく心つきあきこ
と。はいりて御らんせられ。とおをふ。さるそ
らごと。あどの出く。ハく。あけ。せ。を。う
て。こと。紙。お。雨。を。い。ぬ。お。う。あ。ら。せ。て。去。を。ふ。
雨。あ。ら。ぬ。名。の。ふ。ま。け。る。あ。さ。て。や。ぬ。さ。ぎ
ぬ。ま。ハ。侍。らん。と。け。い。した。ま。右。近。内。侍。あ。ど。ま
か。た。ら。せ。給。ひ。て。わ。ら。を。せ。た。ま。ひ。ま。り

補 蘆の畫屏風

二帖

補 京都銀閣寺什相阿彌筆

補 真頼曰。六曲。おて。金銀の砂子。おて。隈。ど。ま。り

補 安祿山合戦

補 本朝畫圖品目云。安祿山合戦

補 真頼曰。安祿山合戦繪ハ。女宗皇帝繪。又長恨
歌繪とハ。同類異物ある也

補 朝倉物語繪

補 明月記云。貞永二年三月廿日云云。日来撰出物
語月次五十月不入源氏并狭衣於哥ハ披群他事
時中宮被新圖狭衣難不可然源氏當
又院御方別被書此所撰。夜寢覺。御津濱松。心高
東宮宣旨。左右袖濕。朝倉御河爾開留取替波末葉
露。海人川藻。玉藻亦遊。以十物語。撰。每月五。金吾清
書訖。又加一見返之。付繁茂。進入云云。以取交為興

補 海人川藻物語繪

補 明月記云。貞永二年三月廿日。文上リニ
引ケリニ

補奥州中尊寺光堂壁畫

補古畫目錄云、畫清衡等鷹狩之圖云云、今ハハゲテ見エズ、摹本片山五郎兵衛家ニ在リ

補在原業平朝臣像

補古畫類聚目錄云、在原業平朝臣像、不退寺藏

補真賴曰、業平朝臣の像數種あり、なノ部見合
と云

補顯輔卿像 一幀

補摹本淺草文庫ニあり、御室粉本と記せり、畫工

不詳

補真賴曰、烏帽子狩衣を着たる像あり

補有仁公像 一幀

補摹本淺草文庫ニあり、御室粉本と記せり、畫工

不詳

補真賴曰、烏帽子直衣を着たる座像あり

補顯季卿像 一幀

補摹本淺草文庫ニあり、御室粉本と記せり、畫工
不詳

補真賴曰、烏帽子狩衣を着たる坐像あり

補有家卿像 一幀

補摹本淺草文庫ニあり、御室粉本と記せり

補真賴曰、烏帽子狩衣を着たる坐像あり

補足利尊氏公像

補本朝畫圖品目云、畫飛驒守惟久、狩野家藏

補真賴曰、原本絹飛驒守惟久と、養朴筥書付あり、
摹本淺草文庫ニあり、甲冑を着し、左手ニ弓

増補新編古語類聚

在原業平朝臣像

不退寺藏
縮寫



右近衛權中将在原朝臣
業平者平城天皇之孫阿
保親王之五男也元慶
第四曆薨年八日行年
五十六年
杉原たはのすをよめ
て彩み礼そこは法書れ
は人のお守りあるもの

長命

をとり馬上の像あり

補同

補集古十種肖像部云足利尊氏公像或家藏

補真頼曰尊氏喉輪及脇楯を着せる馬上の圖あり

補同

補同書云同像尾張國熱田地藏院藏

補古畫類聚目錄云等持院殿畫像熱田地藏院藏土佐光信筆

補真頼曰尊氏直岳を着し喉輪及脇楯を着せ不馬上の置あり摹本淺草文庫あり摹本よ記して云或人云土佐家の手扣を見るふ熱田神前の繪馬の由筆者光信といふ今地藏院の

掛をのとりと見返たり

補同

補集古十種肖像部云同像松浦家藏

補真頼曰衣冠の座像あり傍に太刀をおけり

補同

補古畫類聚目錄云等持院殿畫像加州家藏

補同

一楨

補稻葉丹後守藏紙本畫工不詳摹本淺草文庫あり

補真頼曰甲冑を着し左手に弓をとり不馬上の像あり畫上ふ題して從一位贈左大臣征夷大將軍源朝臣尊氏卿延文三年の文ありこの像飛騨守惟久が畫ぶなりといふをいと甚似

たり

補同義満公像

補古畫類聚目錄云。鹿苑院殿像。神護寺藏

補倭錦云。春日行秀。鹿苑院像。色紙アリ。京高尾什物

補真頼曰。直衣を着たる座像あり。畫上。應永二十一年九月六日。佛日山。怡雲の讚あり。梅園奇賞。よ。此の圖を出せり。摹本。淺草文庫。よ。あり。就て見るべし

補同

補松平帶刀藏。絹本。繪土佐行秀。摹本。淺草文庫。よ。あり。摹本。よ。云。元阿波公方重代の藏

補真頼曰。直衣を着たる坐像あり。畫上。よ。置色

紙二枚あり。應永十三年丙戌五月六日。怡雲。沓の賛あり

補同法躰像

補集古十種部肖像。云。源義満法躰像。山城國金閣寺

藏古畫類聚亦司

補真頼曰。曲录。よ。か。よ。坐る像あり

補同

補同書云。同法躰像。藏未詳

補真頼曰。左手。よ。珠數を持。右手。よ。繪扇をよ。て。坐像あり

補同 一幀

補京都相國寺藏。讚ハ。巖中和尚あり。摹本。淺草文庫。よ。あり

補同

補同書云。同像。山城國五條八幡宮藏古畫類聚目錄亦同ト
補真賴曰。衣冠ふて。太刀をたき。右手に中啓を
はてる座像あり

補同義植公像

補所藏詳あらむ

補裏書云。足利十世惠林殿義植公真影。土佐義光
筆。東山相公養子。義視公長子也。大永三未四月九
日薨。在世五十八

補真賴曰。衣冠ふて扇ををてり。摹本淺草文庫
あり

補同義晴公像

補萬松院殿穴太記云。五月三日○案どる五月三日天文

りふハ。土佐刑部少輔光茂を召て。御志ゆどうを
摹させらる。けふの暮程ハ。既ニ御せつ志あり
せば。帝釋寺心海と云老僧を召て。御臨終進め奉
る云云

補真賴曰。衣冠帶劔の座像あり。天文十九年五
月三日。刑部少輔藤原光茂と名書あり。但所藏
不詳。摹本淺草文庫あり

補敦盛像

補古畫類聚目錄云。大夫敦盛像。攝津國須磨寺藏

補惡七兵衛景清像

補本朝畫圖品目云。惡七兵衛景清像。鎌倉海藏寺
藏

補安達盛長法躰像

增補考古畫譜卷二

補集古十種肖像部云藤原盛長法躰像武藏國糟田村放光寺安置

補真賴曰坐像あり

補赤松則祐像

補同書云源則村像高野山赤松院藏

補真賴曰此の像法師武者の躰あり

伊部

伊勢太神宮神寶圖

三卷

畫圖品類載之

紀州家藏本兩宮神寶圖五卷有着色云續群書類從目錄卷五内宮御神寶記外宮御神寶記合一冊あり

伊勢八幡神像

一幀

名畫拾彙云藤原吉光駿州沼津妙海寺有其所畫伊勢八幡神像僧日蓮題贊志氣活動矣案京師知恩院藏法然上人傳畫卷吉光所畫其詞伏見上皇及親王公卿之書也是正和年間之事與蓮相隔三十餘年吉光壽考致如是乎倭錦云土佐吉光伊勢八幡圖沼津妙海寺什物

躬行按ふ。日蓮名是生。弘安五年化寂せり。吉光ハ正應正安中の人を述ハ。世代いたく後述ハ。其の據るところハ。畫工便覽あるべし。畫工便覽の文。既ハ阿ノ部天照皇太神の御影の條下ハ。全く掲げたり。就て見るべし。

石清水社再興繪詞 一卷

畫藤原信義詞按察使前權中納言源俊資。文化十

年三月

躬行曰。綾小路俊資卿。權大約言有美卿男。信義何人なるをたど。淺草文庫ハ摹本あり

補真頼曰。卷中ハ倭舞の圖あり

同社臨時祭繪 一卷

畫工未詳粉本在官庫

伊豫三島社神寶圖 二卷

好古小録云。古制ヲ考ルニ足ル

補圖畫一覽下卷云。三島社神寶圖二卷。畫圖品類

云。伊豫三島社神寶圖二卷

嚴島社神寶圖 二卷

好古小録載之

躬行曰。近時嚴島名所圖會十卷。刊行已流布于世上。神寶圖五卷在。於其中。頗佳也

同社納經。贖卷并料紙下畫

本社所藏。法華經廿八卷。無量義經。觀普賢經。心經。

阿彌陀經各一卷。平家一門集書。卷標及料紙。所畫佛像故事。蘆手之類。鏤金銀。以珠玉為裝。其在麗實。盡善美者也。亦有清盛公賴盛卿兩筆。法華經八卷。觀普賢經一卷。俱不知畫工。

平相國自筆願文略云。便奉納于金銅篋一合。可安置之於寶殿矣。弟子并家督三品。武衛將軍。及佗子息等。兼又舍弟將作大匠。能州若州兩刺史。門人家僕都盧卅二人。各分一品一卷。所令盡善盡美也。

了伴曰。右卷標畫中。法橋光琳補足之。其二三卷ありと。其是非を去らば。

補伊豆三島社神寶圖 一卷

補摹本奥書云。右伊豆國三島社藏。二位禪尼所納手箱圖。天保十四癸卯年八月廿五日。於寶前寫畢。

法印養信

補真賴曰。摹本淺草文庫あり

伊豆權現縁起 二卷

皇朝名畫拾彙云。森村彌三郎。業畫於東州。永正十六年三月。繪伊豆權現縁起二卷。今在般若院。

石山寺縁起 五卷

補本朝畫圖品目云。石山寺縁起五卷。畫一二三隆兼。四光信。五隆光。詞果守僧正。補詞實隆公。為重卿。古畫目錄古畫類聚亦之ヲ載ス。

好古小録云。第一二三卷。畫隆兼。詞果守僧正。第四卷。畫光信。詞實隆公。第五卷。畫隆光。詞為重卿。佛刹繪詞傳ノ巨臂也。

補上佐系圖頭注云。石山寺繪傳第一二二詞石山

北條... 古書言...

座主僧正果守筆。繪右近大夫將監高階隆兼筆。第
四詞三條西前内府實隆公筆。繪土佐刑部大輔光
信筆。第五詞冷泉為重卿筆。繪粟田口民部法眼隆
光筆。寛政四子年十二月十三日。東武繪師住吉廣
行押花又云石山寺縁起第一二三畫右近大夫將監
高階隆兼也。ト東武住吉内記廣行極之。
補倭錦云。土佐隆兼。石山寺縁起。詞三筆。繪三筆。石
山寺什物

躬行案。繪所預右近大夫將監高階隆兼ハ。春
日驗記賀茂祭雙紙の奥書等ハ據るハ。延慶元
徳中の人ある事論るハ。石山座主果守僧正ハ
中園相國公賢公子。應安中の人。粟田口民部法
眼隆光ハ。清凉寺融通念佛繪詞裡書ハ。又ハ

應永中の人。二條中納言為重卿ハ。尊卑分脈ハ。
至徳二年二月十五日。六十二歳薨と記。刑部
大輔光信ハ。彈正忠實周男。明應永正頃の人。三
條西内府實隆公ハ。天文六年十月三日。八十三
歳薨せり。然レバ此縁起。隆兼草創の比。至徳
已前ハ隆光第五卷を補綴。第四卷ハ其後散
佚。あど一たゞらんを。天文已前ハ。光信補足せ
し。之のあらん。由て第五卷の詞書を。品目ハ果
守僧正とせるハ。誤あり。為重卿とをへ。續群
書類從第八百十二ハ。此詞ををさむ
同縁起補 二卷

畫谷文晁。詞飛鳥井雅章卿。白川少將定信
入道有跋文
躬行曰。是ハ白川少將入道樂翁。文化の頃寺主

曾補考古書言...

增補考古畫譜卷一

の需め不應トて、雅章卿のかゝむし詞書のお
まゝ合せし、新たる圖を製て、文晁の畫が、
しめ、二卷とありて本編不補續せられしあり、
其圖ハ専ら春日驗記等の古畫よりよといへ
ども、まゝ、新意を出し、さう、文晁畫力精絶、實不
古人不耻むといふべし

一遍聖行狀繪傳六條道場藏 十二卷

六條道場歡喜光寺藏、畫法眼圓伊、詞聖戒法師、外
題世尊寺經尹卿
跋云、正安元年己亥八月廿三日、西方上人聖戒記
之畢、畫圖法眼圓伊、外題三位經尹卿筆
又云、應安二年乙酉卯月三日、破損之間、修補之畢、
于時僧阿

又云、延德四年六月廿三日、及大破間、修理之、于時
滿願寺住職覺阿

匣裡書云、一遍上人一期修行畫圖十二卷、件畫圖
者奉顯一遍上人之行、德殊感六字稱名之勝利、為
樂中丹之懇念、敬圖後素之新様、爰自北山入道太
政大臣家、被召之間、令進上之處、所納之櫃破損之
間、被納新櫃、所被返渡于六條道場也、彼古文之殘
壁底也、遙傳絲竹之聲、此畫圖之納櫃中也、永得盤
石之堅、于時應長元年辛亥仲冬上旬、記之而已
後中内記云、享保二年六月十四日、六條道場歡喜
光寺什物一覽事、馬腦石之十六羅漢云云、六條道
場縁起十二卷、絹地也、筆者行能、繪者法眼圓伊、繪
如形見事成物也

增補考古畫譜卷一

本朝畫史云。圓伊叙法眼畫。六條道場一遍上人緣起。蓋有十二卷。筆法類宅間住吉。其山川樹石彩墨圓熟。意趣有餘者也。

補本朝畫圖品目云。六條道場一遍聖繪詞十二卷。畫法眼圓伊。詞僧聖戒。歡喜光寺藏。

好古小錄云。六條道場繪詞往々古ヲ考ルニ足ル。圓伊畫力愛スベシ。但其圖小ニシテ。詳細ヲ盡シガクシ。可惜。

寺社寶物展覧目錄云。六條道場縁起。畫力絶倫。其下狩野永納も是むをゆて。筆力宅間住吉小類也。其山川樹石彩墨圓熟。よして。意趣餘ありといへり。詞書の筆者ハ。寺家小所傳ありといへど。世尊寺行房朝臣とみよたり。

採要記之
已下同

道の幸云。六條道場。一遍上人繪詞をみる。十二卷あり。詞ハ聖戒筆。よて。行房朝臣ハ似たり。繪ハ殊ニ勝きたるをのともよたり。櫃のふとよ應長元年の記あり。

躬行案ハ。此繪傳詞書の筆者ハ。聖戒法師あり。事奥書ハ明瞭ありを。展覧目錄ハ。寺傳ありよ。よ。行房朝臣と。後中内記ハ。行能卿とせよハ。皆誤あり。右中將行房朝臣ハ。經尹卿男。建武二年三月六日。於金崎自殺と家譜よのせて。時代かくせ。行能卿ハ。經尹卿の祖父よて。仁治元年十一月廿六日。六十二歳薨と。分脈よ見よされハ。正安の圓伊よ。ハ。六十年の昔なり。但外題の筆者。經尹卿薨年ハ。此よりあらざ

遍聖行狀繪傳
六條道
場藏



長命



大正九年...

まど。延慶三年六十四歳出家。と家譜に記さ
たれバ。時代ハ相おかひたふべし。後中内記ハ
中御門内大臣宗顯公の家記あり

補真頼曰。此の六條道場と。錦天神社藏とハ。同
類のそのあるべし。下條に載たる。錦天神社藏
の條。合看をべし。

補又曰。摹本十二卷。淺草文庫にあり。畫様四條
道場本。及藤澤本とハ。甚異あり。卷物のたけも
又おほきし

同
四條道場
十卷

四條道場金蓮寺藏。畫越前守行光。詞宸翰及公卿
合作。跋云。德治第二之天。初夏上旬之候。馳筆終功
畢

好古小録云。畫工姓名不傳。六條道場及藤澤道場
ノ卷ニ比スレハ。其畫精シカラズ。固ヨリ圖モ同
ジカラズ

寺社寶物展覧目錄四條道場云。寺傳曰。繪越前守

光行詞書後伏見院。後二條院。花園院。宸翰。轉法輪
公忠公。同實量卿。冷泉為秀卿あり。畫工越前守光

行といふもの。土佐系圖小見込。行光の訛傳お
らん。さきと行光ハ。延文中繪所預小補せらる
た。まバ。自徳治ハ。五十餘年を時代おくせたるう
へ。畫様も劣りて。行光とハ見込。然とるは

までの拙畫ハあらざ
道の幸云。四條道場へゆく。おほし。一遍上人繪
詞十卷あり。繪ハ越前守光行。案行光の詞ハ後伏

曾補考古畫証卷一
三十四

見院。後二條院。花園院。宸翰。轉法輪公忠公。同實量卿。冷泉為秀卿といへり。繪ハ何らくくとして見所もあし

倭錦云。四條道場一遍上人繪傳。土佐行光。詞後伏見院。後二條院。為秀。花園院。公忠。實重

補本朝畫圖品目云。四條道場遊行繪詞廿卷。畫越前守行光。詞寄合書

躬行案。後伏見帝。延元元年四月六日崩四十

後二條帝。德治三年八月廿五日崩四花園帝。貞

和四年十一月十一日崩五太政大臣實重公

嘉曆四年六月廿六日薨七中納言為秀卿。應安

五年六月十一日薨。此御々々。德治の製

小年代相應せり。行光の時代いさゝり後をた

弟ハ。晩年の作ふやあるらん。さて展開目錄及道の幸ふ。三條左大臣實量公を載をむと。公ハ文明十六年十二月十九日薨せらむと。德治の當時未生已前あむ。倭錦ハ實重公とあるを是とをむ。後押小路内府公忠公ハ。永徳三年十一月廿日十六薨せらむと。是も又德治ハ未生已前あむ。誤なる事論あり

又曰。展開目錄。行光延文中繪所預。補せらむといへふハ。本朝畫史ハ藤原行光。經隆子也。任越前守。延文六年為繪所。とあるよむとあるあむべけれど。經隆ハ中務少輔隆親男。承安中の人あむ。承安より延文まで。百八十餘年を経ぬべし。父子二世あして。豈か。る年歴あら

日本書紀卷之...

んや、畫史の疎謬如斯。然とバ延文補繪所の説も亦憑難し

補真頼曰、摹本二十卷淺草文庫にあり、卷尾云、德治第二之天、初夏上旬之候、馳筆終功畢、又奥書に、弟子宗俊宿縁多幸、而奉逢上人之濟度云云、若依此繪圖有發心之人者、互去娑婆苦域、同到安養樂邦而已、と見返りて弟子宗俊云云の文ハ、藤澤本と異なることなり、畫工ハ異なりといへども、繪様ハ大クたかあど、詞をまたあより、但此本十卷あきども、十卷を上下に分ちり、十卷とせしむるあり

同
藤澤道 十卷
相摸國藤澤清浄光寺藏傳曰、畫民部卿法眼隆光

補本朝画史云、粟田口民部卿法眼隆光、益春日繪所也、画融通念佛縁起我聞宅間、住京、粟田口、芝、四人者春日繪所也、共住南都、世業寫佛云云、又有窪田筆力類

詞遊行二世真教

奥書云、弟子宗俊宿因多幸而奉逢上人之濟度、得聞出離之要法、思其恩德、檢其報謝、高於天、厚於地、乃自建長文永之往事、至永仁正安之行儀、圖師資之利益、備弟子之報恩、類聚而為十卷、殆揚十之一、二、此中或有四句偈、或有七言頌、或有人之返報、或有自之詠歌、皆唯出離生死之肝心、往生浄土之要路也、至段々詞者、僅記録頑魯之領解、更不話賢哲之後難、苟思其事實、不好其事華、唯欲見者之易論、聞者之深誠者也、將又遠傳於遐代、近為及未來、終一部之書、寫安十卷於道場、若依此繪圖、有發心之人者、互去娑婆苦域、同到安養樂邦而已、
函裏書云、此縁起箱、能登越中加賀三國大守、菅原

曾補考古書証目卷一

朝臣正三位中納言利光卿。遊行卅五世之時御寄
進。寛永六年正月吉日

好古小録云。畫隆光。詞二世遊行。圖六條道場所藏
と。同ジカラズ。畫力圓伊ニ及バズ

補本朝畫圖品目云。藤澤道場遊行縁起十卷。畫隆
光。詞二世遊行

古畫類聚目類云。藤澤寺縁起。民部法眼隆光
倭錦云。遊行縁起。土佐吉光。詞二祖上人。藤澤山什

物
補古畫目錄云。一遍上人繪縁起十卷。民部法眼隆
光筆。相模國藤澤寺藏。錦天神ヨリ人形少大キシ

貫雄曰。此繪傳栗田口法眼といひ傳へた也ど
も。實ハ吉光筆あり。詞書二世上人と傳へた也

ども。三人の手にあるものあり。一卷より四
巻まで兼空上人。五六巻別筆。七巻より十巻は
いさるまで。また別筆。誰とも知らざれば
躬行曰。此畫傳奥書ふよあり。宗俊親しく一遍
僧の化度を受く。かきふきあれば。正安の作な
る事論ありるべし。然る時ハ民部法眼隆光ハ
應永年間の人ある事わく。し。て。時世後世
たむ。寺傳ハ誤あるべく。倭錦ハ正安中の人
ある。吉光とせると。かあふべからん
補貫義曰。藤澤道場本ハ畫ハ隆光の筆ありと
定めたるハ。廣行あり。その後吉光と定めたる
ハ。廣定あり。貫雄のいへる説ハ。廣定の説を受
けざるあり



一遍聖行狀繪傳
藤澤道場藏



補真頼曰。摹本十卷。淺草文庫にあり。畫樣四條。道場本と大略おなじ。卷尾に記して云。住吉家鑑定書に云。一遍上人繪詞傳十卷。紙地彩色繪粟田口民部法眼隆光筆。無疑者也。天明七未年十一月。住吉内記廣行と見たり。

同新畫傳

藤澤道場藏

十卷

清淨光寺傳云。東山院御寄附。外題靈元院宸翰。畫自一卷。至四卷。飛鳥井中納言雅豐卿。自五卷。至十卷。堀川康致朝臣。詞近衛攝政家熙公。葉室從一位頼孝卿。德大寺内大臣公全公。東園大納言基長卿。鷲尾大納言隆長卿。石井中納言行豐卿。冷泉中納言為綱卿。愛宕三位通晴卿。阿野中納言公緒卿。櫛笥中將隆成朝臣。冷泉三位為久卿。園中納言基香

卿。堀川中務大輔康致朝臣。石井宰相行康卿。交野三位時香卿。中山大納言兼親卿。平松前中納言時方卿。風早前中納言實種卿。飛鳥井中納言雅豐卿。醍醐大納言冬熙卿。今出川内大臣伊季公。妙法院堯延親王。集書匣備前空山公寄附塩尻卷七云。今の遊行唯稱上人。丙戌の年京師にあり。内へは時々召せらる。一遍上人の畫傳。いよへよまあせと云。言葉俗に。かゝも違ひあり。此をび勅して畫を鷲尾隆長圖に。詞ハ諸家の能書卅七人。命して筆せしめ給ふ。七月の初め。成功せしむ。即唯稱ふたまひ。八月廿三日。祖忌を修して。廿四日京師を立。西國へ下向。云云。躬行案よ。こハ藤澤新繪傳の事と聞江て。丙戌

ハ寶永三年あり。其畫りきの名も違ひ。書手の
 數のいたくおほきハ傳聞の謬あるべく。且繪
 ろきと記し、鷲尾隆長卿ハ手りきのうち
 み正さり。はて此繪傳新古とも。旅行中も隨
 身たよよしなるが。近年いばこの旅泊よて
 火ふあひく。新繪傳ハ烏有と成ぬ。と或人いへ
 りき。但倭錦ハ藤澤別繪傳。筆者未定とあるハ
 此新繪傳をいへよ。や。詳あらむ
 補了悦曰。鷲尾隆長卿ハ畫を能くかゝきた
 る。されば此の繪詞ハ書畫ともよをのせらせ
 たるあるべし
 補真頼曰。藤澤道場新縁起の圖ハ古縁起よ
 りて。いさゝら繪様をかへたるものあり

躬行曰。市屋道場在
 六條宮小路近世邊
 于五條南上徳寺中
 又曰。一遍ハ時宗の
 祖。世ふいふ遊行上
 人こそ多し。但元亨
 親書不載

同

市屋道場藏

殘缺二卷

補本朝畫圖品目云。市屋道場繪詞。畫者不傳。詞世
 尊寺行能朝臣。同書頭書云。市屋道場一遍上人繪
 詞。今殘闕二卷あり。畫豊後法橋。詞頗阿兼□兩筆。
 原本古筆了伴藏。今所在可尋之

補倭錦云。豊後法橋。一遍上人縁起

躬行曰。僧一遍。伊豫國人。河野通信弟。正應二年
 八月十日化せり。從三位行能卿ハ。仁治元年十
 一月廿六日薨ず。上人よりハ先輩をせむ。或説
 ハ誤あり

補真頼曰。予一遍上人行狀繪傳。市屋道場本摹
 本を見る。其の奥書ハ云ハく。右兩卷之内一遍
 上人之縁起也。繪者土佐將監筆也。言葉書端三

錦小路天神社藏古畫譜卷一

錦小路天神社藏古畫譜卷一
同本
 同本
 同本
 錦小路天神社藏古畫譜卷一
 錦小路天神社藏古畫譜卷一
 錦小路天神社藏古畫譜卷一
 錦小路天神社藏古畫譜卷一
 錦小路天神社藏古畫譜卷一

同

錦小路天神社藏

十二卷

古畫類聚目錄云。平安錦小路天神社藏。一遍上人
緣起繪不記筆者

補古畫目錄云。一遍上人緣起繪十二卷。京都錦天
神社藏。正安元年己亥八月廿三日。西方行人聖戒記
之畢。畫圖法眼圓伊。外題三品經尹卿筆。應安二年
己酉卯月三日。破損之間。修補之畢。于時僧阿。延德
四年壬子六月廿三日。及大破間修理之。于時滿願
寺住持覺阿

補真賴曰。此の錦天神社藏の縁起繪と。六條道
場歡喜光寺藏とハ。同物ある小や。書畫筆者及
奥書年号等異かることあり

同

四卷

錦小路天神社藏古畫譜卷一

洛東御影堂藏補足縁起畫工未詳

能畫也恐缺
本無詞書

同異本 二卷

繪住吉豊後法橋詞兼空上人頓阿法師兩筆了佐
倭錦云一遍上人縁起豊後法橋

躬行曰豊後法橋世系考ふる所あり倭錦より巨
勢氏康安中の人と云ふを詳ならぬ頓阿ハ
文中元年八十歳寂せり

補真頼曰市屋道場本に豊後法橋の筆といふ
と同物々別物々よく尋ぬべしさて此本ハ缺
本からん

補同異本 一卷

補圖畫一覽上巻云一遍上人縁起異本一卷無詞
畫越前守長隆光貞朝臣鑒定

補真頼曰光貞ハ土佐守光貞天明ごろの人
と又曰この本もまゝに缺本からん

因幡堂藥師縁起 三卷

好古小録云畫光信書尊應准后普廣院殿寄附本
寺修行所藏也又桃ノ坊所藏ノ本アリ書宸翰畫
光信ト云疑ヲラクハ摹本ナラン

補本朝畫圖品目云因幡堂藥師佛縁起三卷畫光
信書尊應准后

躬行曰尊應准后ハ一條攝政持基公男永正十
一年正月寂光信同時の人あり

補同殘缺 二卷

補所藏不詳

補倭錦云因幡堂縁起筆者未定

増補古今圖書集成

補真賴曰。摹本淺草文庫にあり。詞清水谷實秋卿。西園寺殿兩筆と記せし。畫工ハ不詳。此繪詞好古小録のいへる。三卷の物とハ素よと異なり

同 一卷

擁書漫筆卷三云。因幡堂藥師繪詞一卷あり。詞ハ後醍醐天皇の書と給へるなりといひ傳ふ。天明年中火ふあひて。縹紙ハ燒きたと。全体ハこと申邊あり。畫も詞も考古の便ふ。そふべきことかぶり。好古小録ハ三卷。畫光信。書尊應准后といふるふハ。かちトウらむ
躬行曰。此卷近年予浪花の書畫舗に得て弄弄せり。けし卷子の上下焦とたどと。書畫ハつゝ

かな

伊勢物語繪 二卷

畫圖品類云。伊勢物語二卷。古畫也。筆者不知。補本朝畫圖品目云。伊勢物語二卷。古畫筆者不知。古物語類字抄云。水野大監物殿秘藏。此物語の繪二卷ありて。書畫とを誰が筆ともあらむと。丹青筆意いとしきものあり

躬行間。此水野家の本。普通の第六十九章。伊勢狩使のくだきを初段とせし。案ハ烏丸光廣卿真蹟。伊勢物語跋云。抑伊勢物語根源。古人説々不同云云。又或説後人以狩使事。改爲此草子之端。為叶伊勢物語之道理也。件本狼籍奇怪者也。伊行所為也。不可用之云云。戸部尚書押とあり

小窓閑話 鈴木云。伊物の繪ハ慶長十三年正月。中院通勝卿印行ノ時画を入た。多ふし。奥書に見違る。補真賴曰。小窓閑話の説ハ伊勢物語の画を加へて。刊行せし。タトめあふといへ。也。予此本を藏せり

留補古今圖書集成

同

り、こゝは伊行所為とあるハ、夜鶴抄の作者宮内権大輔世尊寺伊行朝臣と云へる事也

三卷

畫工未詳、詞世尊寺行尹卿

摹本奥書云、右伊勢物語之繪詞三卷、行尹若年之筆痕也、寛永丙子小春上旬、亞槐藤光廣

狩野安信鑑定書云、此伊勢物語三卷、繪土佐左近將監光長之遺筆也、為證其真識其後、狩野右京進

安信

躬行曰、畫師光長ハ、月輪殿の玉海に載せて、承

安頃の人、且左近將監に任せらば、しを聞ひ、

土佐と稱せしむ、又不審あり、世尊寺行尹卿ハ、

貞和六年正月十四日薨じ、光長ハ後、事、百

補真頼曰、伊勢物語繪三卷、画工詳ならず、詞書ハ世尊寺行尹卿と云ひて、その本の摹本、淺草文庫にあり、その奥書、小い、右伊勢物語三卷、京都ヨリ來ル、由古筆了伴取次、新見伊賀守殿ヨリ來ル、其後、水野越前守殿為、裁原本紙、地雲母引、藤也、光長トアレドモ、其レヨリ、後也、詞書繪ノ上ニカキテアレバ、行尹ノ時代、モノナルコト可知、天保九戊戌年七月十日、金華寫葉會心齋押と見ゆ、此三卷の伊勢物語ハ、本文に載

是、野のものと、同物、異物、考ふべ

三、四十年をらん

補真頼曰、玉海ハ光長といへる事のありとい

へるハ誤なり、光長とある事、おハあらじ、光

永あり、又玉海といふ事を誤りて、山槐記あり、

山槐記元暦元年八月廿二日、大嘗會悠記所の

繪師を定むる條、内匠少允中原光永とあり

同

二卷

倭錦云、住吉如慶、伊勢物語二卷

貫雄曰、此他如慶具慶所畫の伊勢物語、大小色紙の類、數多世上にあり

補同

補源平盛衰記卷二云、花山院御臺盤所云云、此御

臺所ハ御美モ嚴ク、情モ深ク御坐ケル上、天下ニ



伊勢物語繪
 所藏不詳摹本
 在淺草文庫



類ナキ繪書ニテゾ御坐ケル紫宸殿ノ御障子ニ
伊勢物語ヲ繪ニ書セ給御事アリ云云

補真賴曰花山院左大臣兼雅公の室ハ大相
清盛公の女ニテ初ハ櫻町中納言成範卿の室
ニテあり

同色紙形 一卷

畫工未詳

補真賴曰淺草文庫摹本卷尾云伊勢物語繪七
枚祐清所持繪本池田常知より來とあり但大
色紙あり

岩屋物語

補本朝畫圖品目云岩屋草紙
本朝畫史云婦人一位飛鳥井榮雅之女也能畫

岩屋物語事實書其詞

躬行曰續群書類從目錄第五百七ノ岩屋草紙
一卷あり

補真賴曰古版本の岩屋物語一卷あり繪あり

犬追物圖 一卷

本云天文十九年五月六角屋形義秀依命土佐刑
部大輔光茂於江州觀音寺城畫之

補古畫目錄云犬追物繪右近將監光茂筆

古畫類聚目錄云犬追物繪右近將監光茂

畫圖品類云一本奥書云正徳二年八月以住吉内
藏允藏本寫之君美貞丈曰本式有大繩小繩此
圖不畫小繩蓋遺漏乎

春村曰光茂所畫の摹本をみるに詞書あり

補真賴曰予方今東京住吉家小藏をよ所の犬

追物圖の奥書の有無を山名貫義よとふ。貫義曰。今住吉家小傳ふる粉本よハ。奥書ありといふ。あらば天文十九年の奥書のあるをハ。西京の住吉家の藏あらん

同

本朝畫史山樂傳云。聞古老所話佐々木初圖犬追物式。或畫騎法七段。皆流播於世

同 展風 一帖

補本朝畫圖品目云。犬追物展風繪。畫光茂

補倭錦云。上佐光茂。犬追物展風

真年曰。品川東海寺妙解院。犬追物展風あり。畫工姓名不傳。とを能畫ひて光茂よりも圖おろきあり。蓋細川家寄附のものあらん

一谷合戦繪 一卷

古畫類聚目錄云。刑部大輔光信筆画圖品類

補本朝畫圖品目云。一谷合戦一卷。畫土佐光信

補古畫目錄云。一谷合戦繪一卷。光信筆

補真頼曰。一谷合戦繪。拔寫一卷。摹本。淺草文庫

小何

生田敦盛繪詞 一卷

枅道開正書畫一筆。西村宗先藏。長七寸餘之小卷

貫雄曰。曾省一本於古筆了伴家。畫工の作。あらど。詞ハ。楠長閻筆。と古札付てあり。元來四半本を卷子よあせり。とあり

家康公參内繪詞 一卷

畫狩野法眼探幽。詞妙法院。堯然親王

與書云。右詞書妙法院二品親王堯然之漆毫也。畫
圖狩野法眼守信之所描也。為後來龜鑑。加走禿兔
而已。慶安二年臘月十七日。毘沙門堂大僧正公海
補真賴曰。家康公參内圖一卷。摹本淺草文庫に
あり

補射場始圖

補本朝畫圖品目云。御射場始

補春村曰。畫圖品目載名。不注卷數并筆者。恐年
中行事射場始之一卷乎

補一乘院宮御藏光信繪

補古畫類聚目錄云。一乘院宮御藏。光信畫

補因果經繪 殘欠

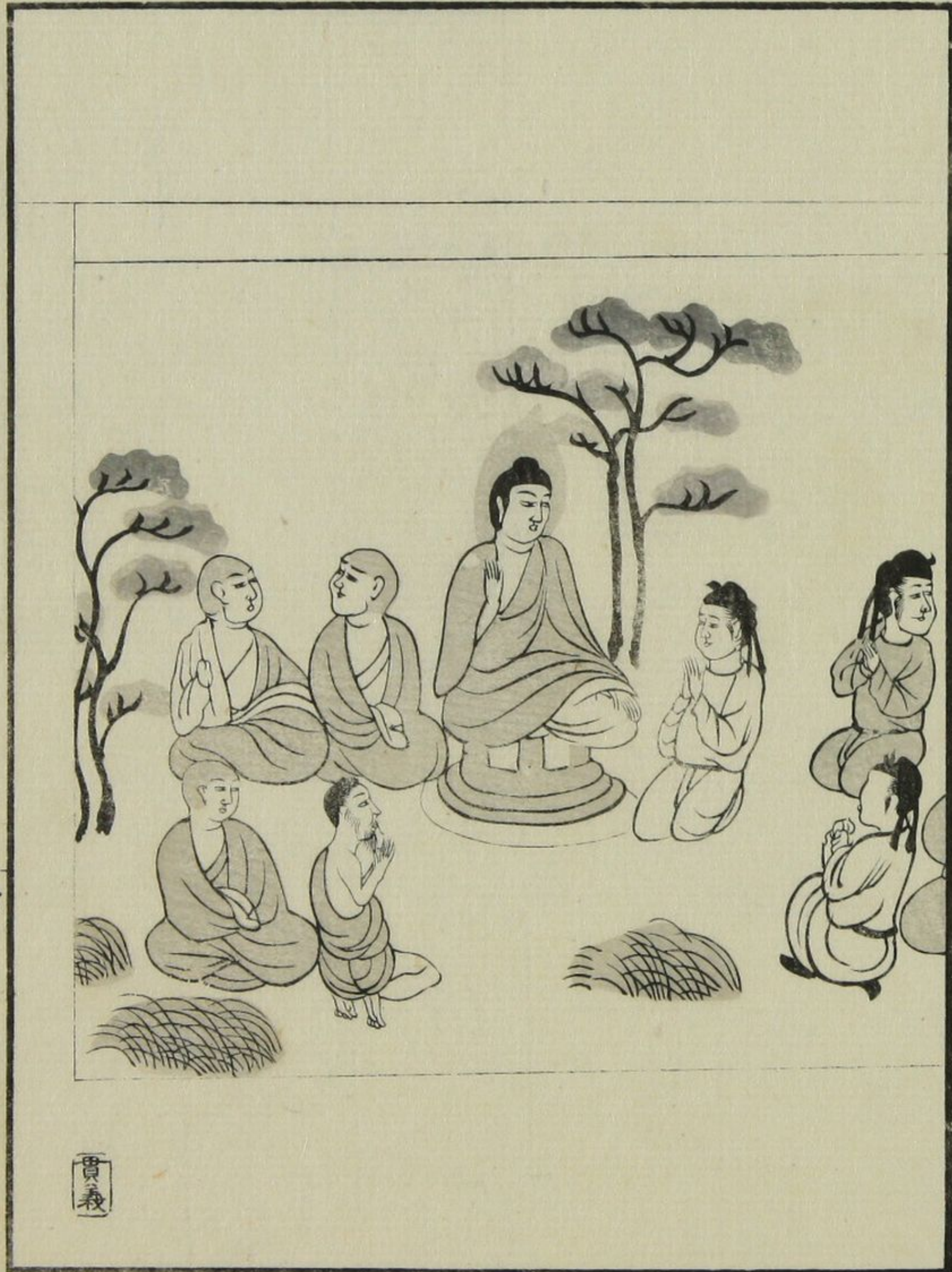
補筆者詳ふらぞ

補真賴曰。因果經繪。世に傳はるもの新古あり。
此の繪ハ古本と稱するもの多し。片葉を柏木
貨一邸藏せり

補又曰。青木信寅の話に曰はく。古本因果經。京
師蓮臺寺に一卷あり。經文ハ弘法大師の筆と
稱するものあり。又仁和寺。又醍醐。報恩寺。又高
野山南院にあり。をべて世に四卷あり。蓮臺寺
のハ卷末断せり。其の他の三卷ハいまど見ぞ
とかさらむき

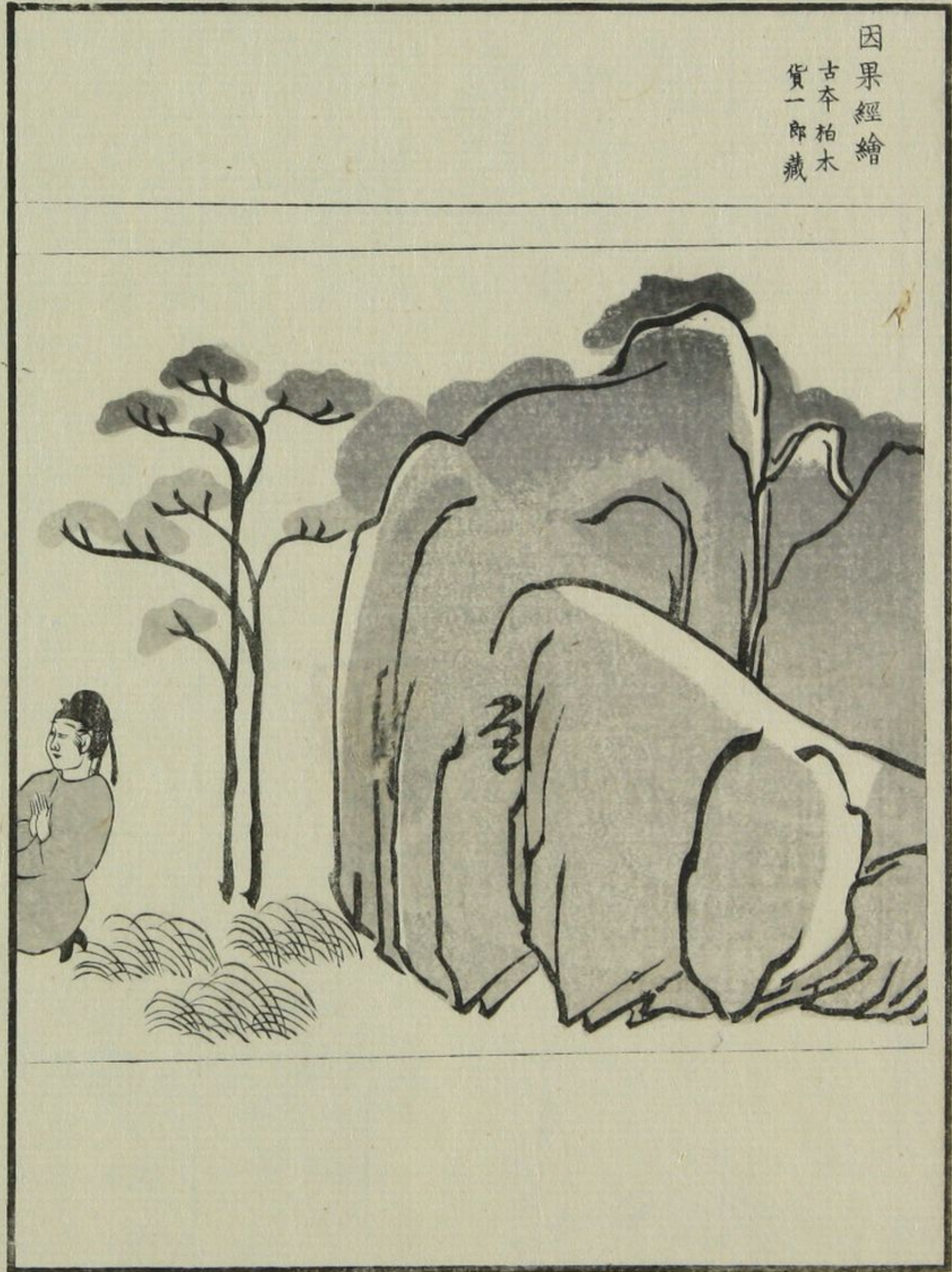
補同 殘缺

補奥書云。建長六年甲二月廿七日。書寫了。執筆良
快。鉢是忠入道為往生極樂。同是吉奉結縁也。畫師
住吉住人法橋。慶應并子息聖衆丸



實義

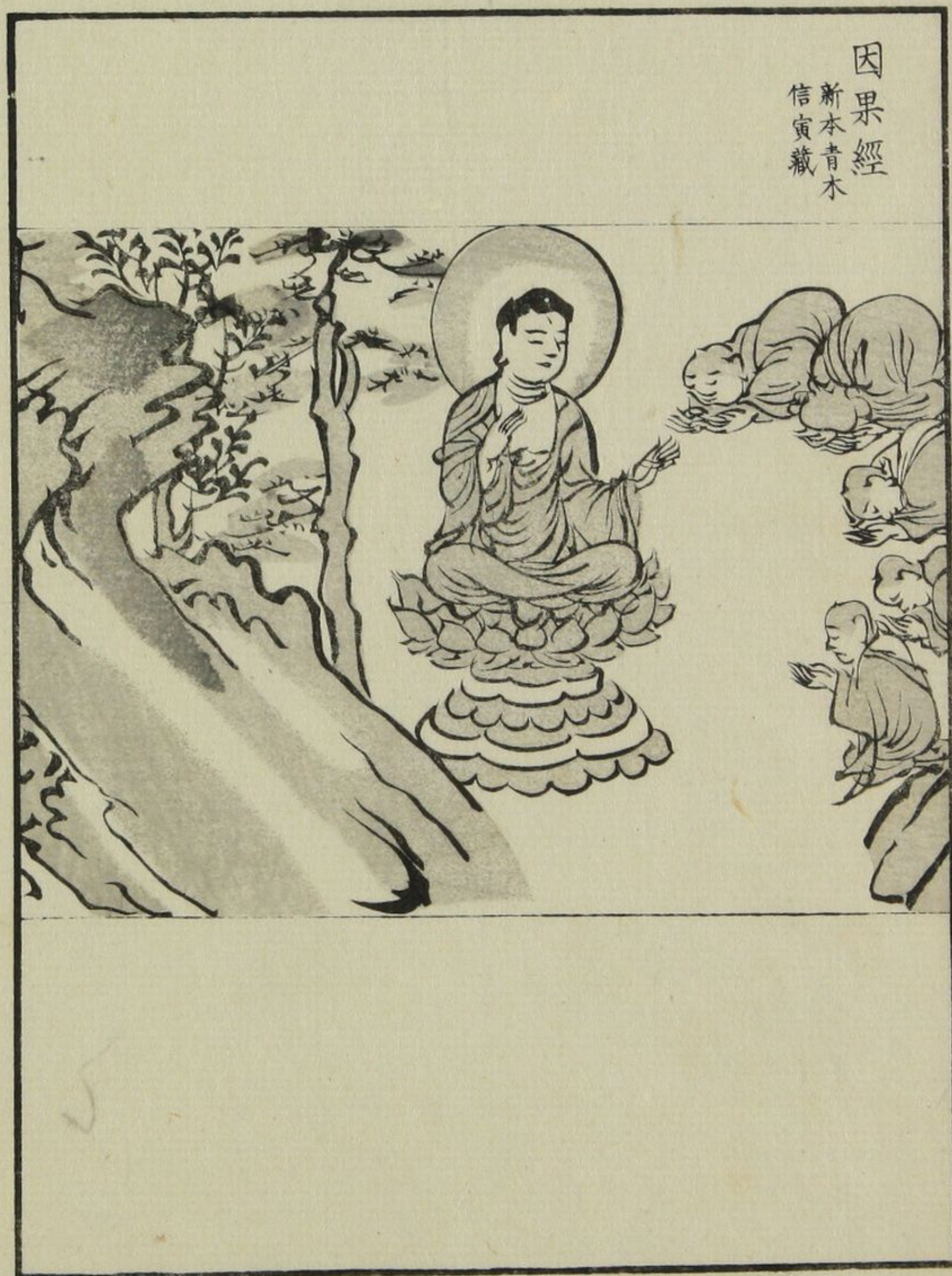
因果經繪
古本柏木
貨一即藏



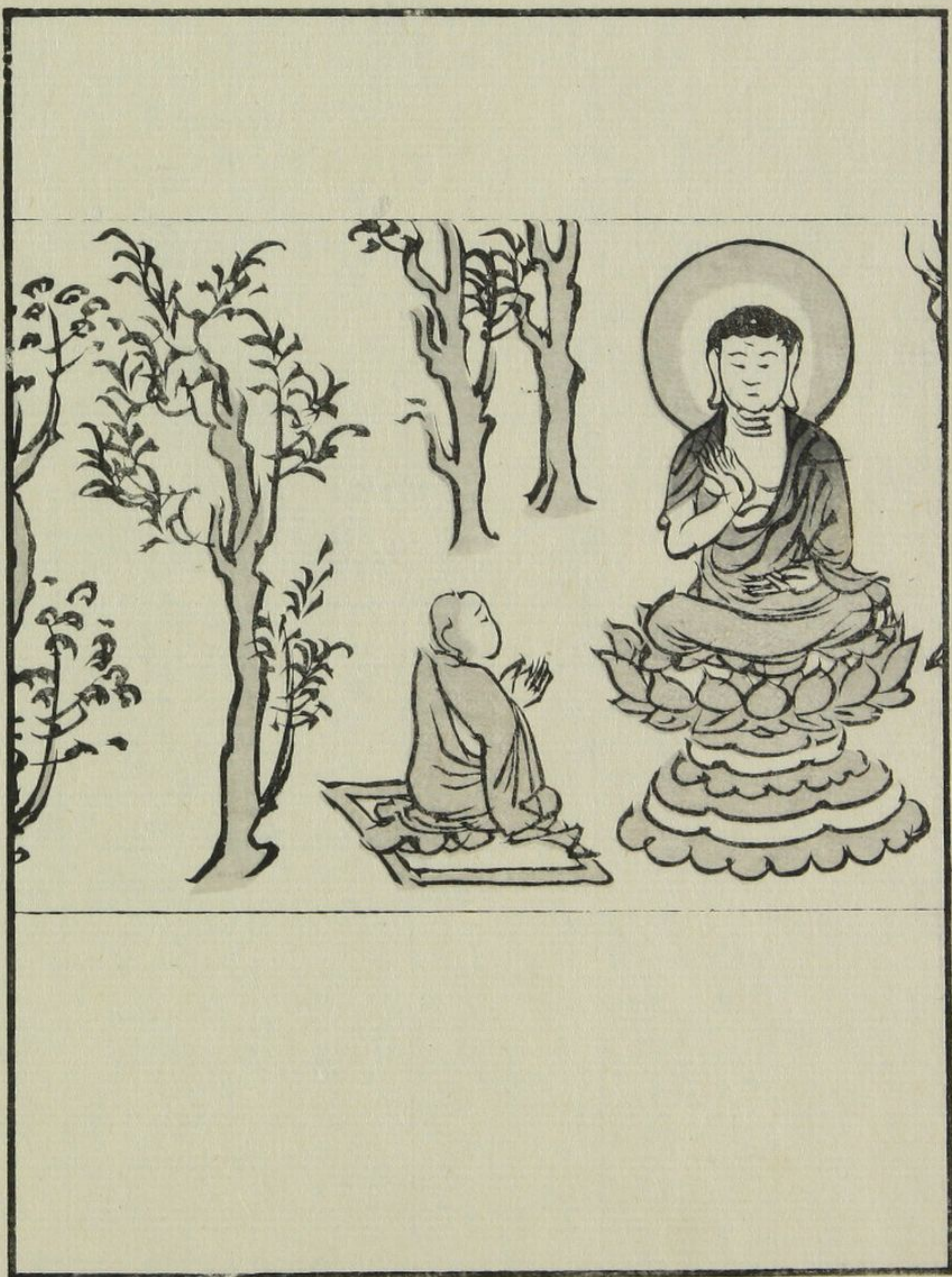


增補教行正統記卷二

因果經
新本青木
信實藏



增補教行正統記卷二



過去現在因果經卷第五

建長六年甲二月廿七日書寫了觀業

良快

觀是忠入道力隨生極樂口是吉奉

結緣慶也

畫師住吉任人介法橋慶忍

并子具聖眾丸

實義

補真頼曰此の因果經ハ新本ふて全くハ傳ハ
らで其の第四の卷一卷ハ青木信實所藏也又
曰良快ハ月輪殿公兼實の子慈鎮和尚の弟子あ
り又曰因果經ハ過去現在因果經あり故小く
ノ部よ掲げて搜索し便を世人單ふ因果經
とのいへバこハ掲げたるなり

補異疾草紙 一卷

補圖書一覽下卷云異疾草紙一卷

補真頼曰異疾草紙ハやまひの草紙あり數種
あり委くハやノ部病草紙の條見るべし

補伊勢皇大神御影 一幀

補所藏不詳畫工不詳摹本淺草文庫にあり

補真頼曰寶塔を頂さる像ふて岩上に立てる

畫上に金泥ふて日輪を畫かけり浮屠氏の造
せるものありべし

補伊勢八幡春日三社圖

補倭錦云宅磨信春三社印アリ

補稻荷大明神御影 一幀

補柁尾高山寺稻荷社御影弘法大師筆摹本淺草
文庫にあり

補真頼曰立像ふて岩上に立る稻を荷へ紙中
長サ壹尺五寸あり

補同 一幀

補東寺寶翰古器目錄云古畫稻荷大明神像一幅

補妹子馬子像

補倭錦云巨勢公持京太秦寺扉妹子馬子繪

補真頼曰巨勢公學
或ハ公持或ハ公茂
ト作る

補 和泉式部法躰像

補 集古十種肖像部云。和泉式部像。山城國誠心院藏

補 真賴曰。帽を冠り。掌を合せたる立像あり

補 一遍上人像 一幀

補 藤澤道場藏。絹本自畫自讚。摹本淺草文庫より

と

補 真賴曰。立像ありて。畫上より南無阿彌陀佛の六字を記せり。又置色紙より讚辭あり

補 一遍上人像

補 集古十種肖像部云。一遍上人像。鎌倉來迎寺藏

補 真賴曰。左手より經卷を持。右手より珠數をとる坐像あり

補 一休和尚像

補 畫工便覽卷四云。一休宗純云云。自畫自讚居多。於城州綴喜郡御園生。新為酬恩菴開基。彼寺畫書多寶納。亦設色形像如生。自号狂雲子。文永十三年辛丑年寂

補 同

補 東海一休和尚年譜永享七年乙卯云。師年四十二歲。曾在泉南。每出遊街市。持一木劍。彈鋏。市人爭問。師劍以殺功。師持此劍。是甚麼用。答曰。汝等未知。今諸方實知識。似此木劍。收在室。則殆似真劍。拔出室。則只木片耳。殺猶不能。况活人乎。人皆笑之。瑞子繪師像。曲録林角。靠長劍。以烏藤。讚有吹毛三尺。撥動煙塵之句。

補 真賴曰。摹本淺草文庫より。所藏不詳。畫上

小自賛あり。寶徳三載嚴寒日宗純印。とあり

補同 一幀

補所藏不詳。畫工不詳。摹本淺草文庫にあり。巨幅あり

補真頼曰。倚子をかゝり。拂子をとてゝ像あり

補同 一幀

補所藏不詳。摹本淺草文庫にあり。原本を探幽法印の模寫せらるり。畫上の自賛に云。倚天長劔光。骨露露堂々。曲录木床上。風流好色腸。江州太守仙翁宗椿居士圖。余陋質需賛。不免塞其請。前住紫野大徳禪寺。順一休叟。天下老和尚印

補真頼曰。頭ハ長髪にて。曲录をかゝり。太刀を

傍にたててゝり

補同 一幀

補所藏不詳。畫工不詳。摹本淺草文庫にあり。記して云。絹堅物。一休自畫賛と申傳候得共。一休よてハあり。下よ有之印の筆者よて可有之候。右印中未詳

補真頼曰。圓相の中は半身を畫りけり。畫上の自賛に云。大燈佛法没光輝。龍寶山中令有誰。東海兒孫千載後。吟魂猶苦許。渾詩。前大徳一休印。とあり。畫下は寸四方許の印あり。印文讀おと

補伊藤景久像

補山城國伏見。河田中行藏。畫狩野探幽。初祖伊藤一刀景久。讚云。吹毛不動。遍界刀鎗。悟得無相。獨歩

大方

補伊藤忠也像

補同所同人藏。三祖伊藤典膳忠也。讚云。天勝一機。全存呼吸。殺活縱橫。閃電無及。

增補考古畫譜卷一終

